

第47回 番組審議会議事録

1. 開催日時 令和元年12月4日 午後3時から
2. 開催場所 よこてイースト 会議室
3. 委員出席 委員総数 5名
出席委員数 5名
欠席委員 0名

出席委員	岡部 えり子	委員長
	佐々木 隆一	副委員長
	土田 百合子	委員（書面での参加）
	菊地 清志	委員
	辻 正憲	委員（書面での参加）

◎横手コミュニティ FM 放送株式会社

出席者7名

奥山 和彦	代表取締役社長
高橋 雅博	支援室長
小笠原 豊	放送局長/番組審議会事務局
木匠 一公	支援室長補佐
高橋 一親	支援室
伊藤 弘子	営業部/放送担当者
細川 正実	営業部/番組審議会事務局

- (1) 12月課題審議 審議番組 横手市伝統文化継承特別番組
『保呂羽山霜月神楽～地域の宝を未来に向けて』
(令和元年10月27日 日曜日 午後1時～ 放送分)
- (2) その他

4. 審議事項

- (1) ①審議番組 横手市伝統文化継承特別番組
『保呂羽山霜月神楽～地域の宝を未来に向けて』について

委員からの意見

- ・番組の構成はどうか、保存会の会長さんと巫女さんと佐藤先生と研究会の会長さんがラジオのマイクの前で話す機会はなかったと思うので、いい機会を与えていただいたんだなと嬉しく思った。
- ・巫女さんや保存会の苦労などが現場の声として汲み上げていたのが良かった。
- ・霜月神楽について事前にラジオでお知らせできたことは、関心を持っていただくことにつながり、視野が広がると思う。
- ・国指定重要無形民俗文化財の特番として保存会の副会長さんや実際に携わっている方々へのインタビューを記録として残すことは貴重な取り組みだと感じた。
- ・ナビゲーターの伊藤さんのゆっくりとした話し方も良かった。
- ・番組の最後に教育委員会の専門員の高橋さんが霜月神楽の歴史もふまえ詳しく説明していただいたので「行ってみようかな」と興味を持った。
- ・これまであまり知られていなかった霜月神楽の裏舞台を、保存会副会長のインタビューでお伝えしている点は、興味深く地元のFM局ならではのと感じた。
- ・地元の郷土史研究家の話では「湯立て神楽」「寄合神楽」といった専門的な部分も分かりやすくまとめており、こちらも好感が持てた。このほか、一晩通して行われる神楽の見どころを時間を追って端的にお伝えしている点も興味深く聞くことができた。
- ・最後に市の担当者が神楽の意味や神社の場所、参加するルールなどをきちんとまとめている点は大切であると感じた。保呂羽山霜月神楽は市民にとって身近ではありますが、その意味や舞台裏、神楽を舞う巫女の話など地元局ならではの番組構成となっており、多彩な文化がある横手市にとって、今後もこうした番組が制作されることを期待したい。
- ・こういう番組を作ってもらって保存会など関係者は喜んだと思う。
- ・地域の伝統芸能を保存するという意味でも、聴取率は低いとは思いますが放送局として、必要だと思う。
- ・聴き終わったら霜月神楽を見てみたいと思った。番組を聴いた人は多かれ少なかれ興味を持てる内容だったのではないかと思う。
- ・出だしの音楽が神楽っぽい音楽から始まると、これから番組が始まるという意識に持っていけると感じた。コーナーの途中途中の切りかわりは神楽っぽい音楽でよかった。
- ・運転しながら聴いていたが、パーソナリティの声はよく聴こえるが、インタビューを受けている方の声が聞き取りにくかった。編集で音の調整ができるものなのかわかならないが可能ならば修正してもらいたい。

《会社側からの回答》

- 全体的には興味を持っていただけてよかったということ、地元で培ってきた伝統をこのような形で発信することを好意的に捉えていただけてありがたい。
- また、この番組の前身となる金澤八幡宮掛唄の特番に続いての第2弾として放送させていただいた。
- どうしても限界値はありますが、なるべく聴きやすい編集をするよう心がける。
- その経緯から毎年伝統行事を紹介する番組を作ることになり、今年は大森の霜月神楽に注目した。
- イメージ膨らませていくなかでスタートの音楽は別の曲を入れながら、途中には霜月神楽の曲を取り入れた。

4. その他番組への意見

- 特になし

5. 意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページ（URL）への掲載

公表の案内 議事の概要

公表年月日 令和2年3月26日